ノルトライン＝ヴェストファーレン州、飲食店の53％がクリスマス会の予約低調と回答

企業が祝賀会を中止・縮小し、飲食店の重要な年末収益源に圧力がかかる。8月の売上高は5.4％減

2026年11月15日（日）



ドイツの一部地域では、多くの飲食店でクリスマス会の予約が期待を下回っている。年末商戦を前に売上が低迷し、すでに厳しい状況にある外食産業に、さらなる圧力がかかっている。

BILDは11月14日（土）、ドイツホテル・レストラン協会（DEHOGA）の調査を引用して報じた。ノルトライン＝ヴェストファーレン州の飲食店経営者の53％が、2026年のクリスマス会や祝日の食事会の予約状況に満足していないと回答した。満足しているとの回答は21％にとどまった。残りは、まだ最終的な評価を下せない、または回答しなかった。

この数字は、ドイツ最大級の地域市場の一つで、ホリデーシーズンのイベント需要が弱まっていることを示している。飲食店、ケータリング事業者、ホテルにとって、企業のクリスマス会や年末の集まりは通常、年末に宴会や団体客から得られる重要な収入源となる。予約が低調なシーズンには、夏季の終了後に通常は利益率を支えると期待される時期にもかかわらず、事業者は宴会場や個室を直前になって埋めようと苦慮することになる。

BILDの報道によると、DEHOGAはクリスマスまで約6週間となった時点で、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の予約状況を「まだら模様」と評した。予約に満足していないと答えた53％のうち、11％は需要の水準に失望していると回答した。

予約の低迷は、経済全般への慎重な姿勢と結びついているようだ。BILDによると、今年は企業、クラブ、家族のいずれも支出を抑える傾向が強まっており、経済状況を理由に、従来の祝賀会を縮小したり中止したりする企業が多い。同紙が取材した業界関係者は、早い時期に予約することの多い中小企業が、特に厳しい財政状況にあると述べた。

ヘッセン州のDEHOGA副会長、Romy MayerはBILDに対し、年末を迎えた多くの飲食店経営者が厳しい状況に置かれ、クリスマス前に会場を埋めようと懸命に取り組んでいると語った。Mayerによると、以前はかなり前からパーティーを予約していた中規模企業の一部は、もはやその予算を確保できない。また、大企業も慎重になっており、特に人員削減を進めている企業ではその傾向が強いという。開催される祝賀会も、規模を縮小するケースが多いとした。

ノルトライン＝ヴェストファーレン州でも、同様の懸念が報告されている。BILDは、同州のDEHOGA会長Patrick Rothkopfの話として、企業が再びクリスマス会を見送る動きが見られると伝えた。企業のホリデーイベントは、飲食店での食事だけでなく、ケータリング、ホテルのイベント会場、個室の貸し切りにも需要をもたらすため、その影響は大きい。

調査結果は、業界がホリデーシーズンに大きく依存している時期に明らかになった。BILDによると、ドイツ連邦統計局のデータでは、夏季の終わりにあたる8月の国内全体の実質売上高は、前年同月を5.4％下回った。同紙は、年初から食品の付加価値税率が引き下げられているにもかかわらず、売上が減少したと報じている。

MayerはBILDに対し、減税措置はせいぜい、価格を比較的安定させ、非常に高いと表現するエネルギーコストの一部を補う助けになったにすぎないと語った。多くの事業者には、税制変更を追加需要の喚起に活用する余地がほとんどなかったことがうかがえる。顧客自身も支出をより慎重に見極めているためだ。

BILDが報じた市場データはノルトライン＝ヴェストファーレン州の地域的な景況感を示すものだが、同紙は他州の飲食業界関係者の声も紹介し、より広範な慎重姿勢をうかがわせた。これらのコメントは全国調査の結果ではないものの、懸念が一つの地域市場に限られないことを示している。

例年の予約期間がまだ続くなか、業界の一部では直前の需要に期待を寄せている。BILDによると、飲食店は今、直前予約を狙っており、特に家族客や、全社規模の大規模な祝賀会ではなく部署単位で企画される小規模な企業イベントに期待している。バーデン＝ヴュルテンベルク州のDEHOGA専務理事Daniel Ohlは同紙に対し、厳しい一年を過ごした後も、消費者にはレストランで楽しい時間を過ごしたいという明確な意向があると語った。

こうした直前の需要で、企業からの予約減少を補えるかどうかは、なお不透明だ。年末イベントを収益の支えとしている飲食店にとって、今後数週間で、失われた売上のどこまでを取り戻せるかが決まる可能性が高い。